

## 解答

- ① 効      ② 従属      ③ 序列      ④ 源泉      ⑤ もんこ

二

問一 A エ B カ C ア D ウ

問二 環境が X 不安定 になり、 Y ゆっくりと大木になっている余裕がない から。

問三 イ

問四 エ

問五 生命は永遠であるために、変化する環境に応じて自らを変えるだけでなく、個体が死んで世代を更新する選択をしたということ。

問六 ア ○ イ × ウ × エ ○

問七 イ

三

問一 エ

問二 エ

問三 X ア Y ウ

問四 春馬は、都が悩み苦しんでいる兄をバカにしているのではないか、と思ったから。（85字）

問五 イ

問六 ア

問七 ウ

問八 エ

問九 ア

問十 ア

## 解説

二

問二 直後に、「草が誕生したのは、白亜紀の終わりごろ」と指摘され、この時期、「気候も変動し、不安定になっていった。」また、草が誕生したと考えられる三角州の環境も不安定で、「ゆっくりと大木になっている余裕がない」のである。

問三 植物が、「進化の結果、短い命を選択した」のは、「一年の寿命を生き抜く方が、天命を全うできる可能性が高い」ため、「次々に世代を更新していく方を選んだのである。」また、植物は、「世代を経ること」で「変化や進化をすることができするため、変化する環境や時代の移り変わりに対応することも可能になるのである。」

問五 「命の輝きを保つ」とは、「生命が永遠であり続けること」である。そのためにも、環境の変化に合わせて自らを変えていく必要がある、また、「一定期間で死に、その代わりに新しい生命を宿す」ことで世代を更新し、「永遠であろうとしたのである。」

三

問一 弟の春馬が知リたかったのは、怪我をして陸上をやめ、管理栄養士になろうとしている兄の本当の気持ちです。兄の早馬と仲がいい都に聞けば何か知っているかもしれないと思い、調理実習室にやってきたのですね。

問四 傍線部の直前の「滑稽。その表現に」怒りの感情が湧き起こっています。都は、悩み苦しんでいる兄の早馬のことは見下しているように感じたからです。

問五 怪我をし陸上を辞めることにした早馬は、目標を管理栄養士に変更しました。そんな早馬を、都は、「陸上がなくなった場所に、必死に違うものを詰め込んで」と冷静に客観的に見ながら、悩んでいる早馬の心情をよく理解しています。そのうえで、都は「自分が本当にやりたいのは、料理ではないと（早馬が）気づくまで、

気が済むまでやるしかない」と言っているのですね。

問九 兄の背中を目標に走り続けてきた春馬は、怪我をした兄の早馬には陸上を続けてほしいと願っていたが、都  
と兄の会話から陸上を辞める決意を知ります。しかも、その辞める原因が、結果として強くなった自分にある  
ことを知り、やるせない思いになっています。